

校友会・歯学会入会歓迎式 第104回生卒業を祝う会 開催さる

TOKYO

日本歯科大学 生命歯学部 校友会・歯学会 入会歓迎式 第104回生 卒業を祝う会



3月11日 生命歯学部

3月13日 新潟生命歯学部

校友会表彰を受けた
学生さんを囲んで

NIIGATA



校友会・歯学会入会歓迎会を催していただき

2015年3月11日、生命歯学部卒業式の後、校友会・歯学会入会歓迎会を催していただきました。

3年の時より校友会・学生会共催の講義や、このKOYU Timesの編集などに関わらせていただいております。私自身にとっては校友会は比較的身近な存在ではありましたが、卒業を迎え、晴れて校友会の一員となれたことに喜びを感じております。

今後も、母校との繋がりを感じながら、自分が学生時代にいただいたことを、今後は後輩に繋いでいけるよう、精進してまいりたいと思います。

第104卒回 生命歯学部 前田祐貴



校友会・歯学会入会歓迎会を終えて

校友会・歯学会入会歓迎会では、先生方が私たちを校友会の一員として暖かく迎えてくださり、激励のお言葉に身が引き締まると同時にとても安心し、ほっといたしました。私たちは、これから一社会人として社会の中で厳しい現実と対峙していかなくてはなりません。そのような時に私たちを家族の様な固い絆でしっかりと支え、見守ってくださる校友会・歯学会の皆様は存在はとても心強く、これから新たなことへ挑戦していく私たちに勇気を与えてくださいました。同じ志を持つ校友会・歯学会の先生方の一員として、私もこれからより多くの方に歯科の可能性を知ってもらい、より多くの方の健康長寿のために役に立ちたいと願っています。

第104卒回 新潟生命歯学部 小出勝典



校友会からのご挨拶

近藤勝洪 会長



2015年3月11日(水)東京、13日(金)新潟において、日本歯科大学第104回生の卒業式が挙行されました。諸君の先輩が母校を卒業し、それぞれの道を目指してスタートしました。卒業と同時に校友会にも入会していただきました。私たちは新しい仲間を迎えた喜びに包まれていました。

多くは、臨床研修の場で歯科医療の実際を学ぶこととなりますが、学ばなければならないことは無限にあるといっても過言ではありません。入学したばかりの諸君にとっては、学生生活を通じては歯科医学のみでなく、患者の苦しみや痛みを知る大切な機会です。社会人としての一般常識は、仲間との関係を通じて理解し、経験していくものですから友人とのコミュニケーションも重要でしょう。

古来、「弧掌(にしょう)鳴り難し」という言葉があります。支えあう仲間がいて初めて事が成れるという意味もあります。というよりも、そうしたことが多くを私たちは経験で知っています。

2025年問題という言葉聞いたことがありますか。10年後、団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)になります。高齢社会では、社会保障(年金、医療、介護など)にかかる費用が巨大化し、支える若人が少ないことによる財源不足が深刻化し、日本社会の問題点が浮き彫りとなってきます。今、10年後の社会保障の在り方についてどのように解決すべきかが議論されています。

皆さんが歯科医療の場で活躍するのは、多分そうした時期になるでしょう。校友会は母校と共にあり、学生の皆さんと共にあることを忘れないでください。

校友会・学生会 特別講義

第15回 平成26年11月20日(木) 午後6時 附属病院 牛込ホール

演題 「**僕が日本歯科大学を選んだ理由**」

講師 新潟生命歯学部教務部長 藤井一維 先生(77回)



第16回 平成26年12月9日(火) 午後6時15分 新潟生命歯学部アイヴィホール

演題 「**この世に不思議なことなどないのだよ ～科学者になろう～**」

講演 生命歯学部教務部長 沼部幸博 先生(72回)



藤井先生の特別講義を拝聴して

藤井先生による講演は浜浦フェスタでも拝聴し、今回はその続編とのことでした。歯科を目指したのは「後輩女性の一言」という砕けた雰囲気から始まり、自身の経歴や学んだ内容、近年の医療費の増大と抑制に関してなど話題は多岐にわたりました。最も興味深かったのは訪問診療に関してのお話で、先生のお考えは訪問診療を専門で行えばどうかとのことでした。診療所を構えることなく、診療訪問用自動車と器材で始めれば、賃借料などの固定費を抑制でき、採算性も向上するのではないかと。また訪問診療では歯科医師、歯科衛生士のみならず、訪問看護師、介護士、患者様の家族など様々な方々とのチーム医療が重要であり、その連携の要として大学病院を利用しても良いのではないかとのお話がありました。幸いなことに生命歯学部の第5学年では口腔リハビリテーション多摩クリニックでの臨床実習が行われており、訪問診療の現場を見学できます。校友会を利用することは大いに結構であるが、自分のみ利益を得るのではなく、次世代のために自らも貢献することが大切であるとのことでした。そのためにはまず、自らが校友会に参加することが重要であると感じました。

生命歯学部5年 小松本 諭



沼部先生の特別講義を拝聴して

今回の特別講義には、新潟生命歯学部5年生を中心に各学年の学生、また諸先生方が参加しました。講義は、先生が歯科医師という道を選んだ経緯に始まり、ある情報における科学的根拠の重要性、最後には校友会への入会がいかに有意義なことであるかという内容となりました。沼部先生は以前実際に問題となった1つの例を挙げてくださいました。それは抗真菌薬の使用による歯周治療というものです。この治療法は一時期、一部の歯科病院に広まり実際に行われていたことがありますが、科学的根拠に裏付けされたものではなく、一部の歯科医師が単なるその経験に基づいた治療法でした。私たちは医療人であり、自分の選択した治療法により患者さんの健康状態に大きな影響を及ぼすことになります。その治療法を選択する際に考慮すべき重要なことは、科学的根拠に基づいたものであるかどうか、であると沼部先生はおっしゃいました。私たちは新しく登場したある治療法が科学的根拠に基づいたものなのかどうかを自ら判断できるようにならなければなりません。そのために日々学んでいかなければなりません。その際助けになるのが校友会であり先輩方であるとのことでした。私たちは卒業後もこのような先輩方のお力添えのもと歯科界の発展に貢献していかなければなりません。

新潟生命歯学部5年 鈴木翔平



第1回 ウィンターミーティング開催

2014年12月13日(土)に、生命歯学部において、第1回ウィンターミーティングが開催されました。これは学内・外の歯学会・校友会会員が、臨床や研究を共有できる学内学会として、企画・開催されたものです。一般講演ではポスター発表の内、4題が学部学生さん(生命歯学部3題、新潟生命歯学部1題)の発表でした。この他、シンポジウム、English学内発表会、研究推進フォーラムと、たいへん濃い内容のミーティングとなりました。今後、これらの活動を継続することで、学内外の歯学会・校友会会員の学術的交流、歯学全般にわたる情報・知識の交換の場となることでしょう。学生の皆さんの参加も大歓迎です！



校友会主催

学術フォーラム2015開催



日本歯科大学校友会主催の学術フォーラムが、2月15日(日)に生命歯学部にて開催されました。本年も大変多くの校友の先生方が全国より参加され、とても有意義な時間を共有されました。校友会では、卒業後も校友の先生方に新しい情報、技術を習得していただけるよう、学術フォーラムやポストグラデュエートコースなどを開催し、卒後研修のサポートをしています。本学の卒業生は校友会・歯学会を通じ、新しいことを習得し、日々の診療に活かされているのです。学生の皆さんも卒業後は校友会を生涯研修に活かしてください。また、一足先に卒業研修の雰囲気を知りたい学生さんも、学術フォーラムに参加することができます。大学の講義とはまた違う、先輩の先生方のピリッとした雰囲気を味わうことができますよ。



松野智宣先生



北村和夫先生



原 節宏先生



学術フォーラム2015に参加して

今回私は、学生という立場で学術フォーラム2015に参加しました。内容は、私にとって難解な演題から歯髄細胞バンクという夢のような演題まで様々でした。現在登院中の私に身近な北村先生の講演が印象的でした。丁寧な解説で未熟な私でも理解を深められる内容でした。当日は、日曜日にもかかわらず多くの先輩先生方がフォーラムに参加されていました。それを見て歯科医師になるまではもちろんですが、歯科医師になった後も生涯が勉強なのだと痛感しました。これからも機会があれば興味のある勉強会に貪欲に参加していきたいと思いました。

生命歯学部5年 立浪秀恭



KOYU Quiz

Q. 写真の歯科器具は何に使うのでしょうか？



・hint・

技工に使うものですよ。木製のハンドルを握って使います。



A: 手回し式遠心铸造機 1907年頃に使用されていた最も簡単な遠心铸造機です。铸造リソンのアルミが部で金属を溶かし、ハンドルを持って勢いよく、>>>をぐるぐる回転させていたようです。危ないっと思ったらですね。

冬季球技大会

冬季球技大会は11月29日に体育館で開催されました。以前は平日の放課後を利用した三日間の日程でしたが、少しでも参加しやすい大会にするために、昨年から三日に分けていたものを土曜日にまとめて行うように変わりました。

当日は200名を超える参加者が集まり、朝から雨で冷え切った体育館も徐々に学生の熱気に包まれていきました。午前中に行われた長縄では、日頃の部活動で培った協調性をいかに発揮し、見事な跳躍を見せるチームがいくつもありました。

また、昼食後のドッジボールでは、鍛え抜かれた身体から繰り出されたボールは目で追えないほど速く、非常に白熱したプレーの数々を目の

当たりにしました。実習や試験も大切ですが、こうした勉強以外のことで仲間と共に必死になれるのも学生時代の良い思い出になるのではないのでしょうか。

この日のために毎週体育会として準備してきたことを振り返ると長いようで、終わってみればあっという間でした。当日の予期せぬトラブルから打ち上げまで、本当に忘れられない経験となりました。球技大会のさらなる発展のために、今回の体験で得たことを次の世代に引き継いでいきたいと思えます。

生命歯学部4年
武内雅貴



参加した11人の学生と校友会の先生達

神奈川校友会新年会

先日行われた神奈川県日本歯科大学校友会の新年会に参加しました。

神奈川県校友会会長の藤井先生のお話を受けて学習への意欲を高めたり、美味しい料理に舌鼓を打ったり、たくさんの先輩たちにお声掛けいただき、会話も弾みとても有意義な時

間を過ごすことができました。二次会では横浜名物の超特大ハンバーガーをごちそうになり参加した学生一同最後まで楽しんでいました。

生命歯学部1年
五十嵐 晃



校友君インフォメーション

校友会の目的は？

明治42年(1909年)6月に、日本歯科医学校(本学の前身)の第1回卒業生が誕生しました。これを契機として、日本歯科医学校同窓会が発足し、これが現・校友会のスタートとなりました。この時の基本的精神は今に受け継がれ、現在の会則でも「会員相互の親睦と学問・技術の向上を図り、母校との連絡を緊密にし、併せて母校の発展に寄与するを目的とする」とされています。

診療室での物語

カルテ No.9

東日本大震災石巻での身元確認作業を終えて



総合診療科 1
光安廣記
(79回)

あ。温かいんだな。ついでこの前までは、ごく当たり前のことだったのに、急に涙がこみ上げて来た。2011年3月も終わろうとしていた時だった。

2011年3月11日 東日本大震災が発生した。そしてその10日後には、東京・愛知・長野・山梨・のそれぞ

れの歯科医師会と日本歯科大学で構成された我々のチームは石巻へと身元確認の為に派遣された。配置されたのは、宮城県で最大の遺体安置所となっていた石巻旧生花市場だった。

そこは大きな体育館のような広い四角いスペースなのだが、まるで別世界へ紛れ込んだかのようにであった。薄暗く、ひんやりとした重い空気が充満していて、コンクリート製の床には無数のブルーシートが広げられ、その上に遺体袋に納められた御遺体がぎっしりと千体ほど雑然と並べられていた。それらを目にした瞬間、圧倒的な現実を突きつけられて言葉を失ってしまった。

私達は無言のまま肅々と作業を開始した。先ずはご遺体の前にひざまずき、御遺体に向かって手を合わせ一礼しながら、心の中で「つらかったですね。寒かったですよね。後少し我慢してくださいね。きっと、もうすぐご家族が見つけてくれますよ。

そうしたらお家に帰れますからね。ひょっとすると、お家が無いかもしれませんが、それでも家族の元には帰れますからね。」とつぶやき、「それではこれからお口の中を見ていきますからね。」「お口をあけますよ。」と語りかけつつ冷たくなった唇を開け、上下前歯の間にミラーを入れてこじ開ける。

ほとんどの御遺体は口をしっかりと閉め、歯は食いしぼり、口の中には真黒な砂がぎっしりと詰まっていた。その為ある程度こじ開けて開口器を噛ませたら、開口器で開けていき、ウェットティッシュを用いて砂をできるだけ拭ってから作業をする必要があった。

さらに、工事用の照明をかき集めただけの場内は薄暗く、山登り用のヘッドライトやペンライトを使っても、結局冷たいコンクリの床に這いつくばり、御遺体の顔に顔を引っ付けるようにしなければ作業は出来なかった。

「うわー！」悲痛な泣き声が場内に響き渡る。泣き崩れる人、認めようとしない人、ただ茫然とする人。普通の感覚ならば可哀想だと思うのだろう、でも僕は違う感情でそれを眺めていた。「ああ、良かった。見つけてもらえましたね。」「これでご家族のもとへ帰れますよ。」場内に悲痛な叫び声が響くたび、僕は無表情のまま、ホッと胸をなでおろしていた。

10日間の作業を終えて東京へ帰ってきた。

何かどこか感情がおかしくなってしまう。患者さんをユニットに通しつつも、違和感は消えないままだった。「じゃあ、治療しますからお口を開けてくださいね。」そう言うて口角に触れた瞬間だった。

「温かいんだな。人の肌って暖かいんだよな。」当たり前のことなのに。その現実を再認識した瞬間、押し殺していた感情が急速に溢れ出してきた。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

